

哲學研究

第三十九卷 第六冊

第四百五十二號

昭和三十二年四月二十日發行

歴史と實存……………ゲルハルト・クナウス

西洋哲學と印度思想……スワミ・アゲーハーナンダ・バラティ
——一つの比較的研究——

フィヒテに於ける自我（完）……………大峯顯

書評 ムルテイ教授の近業……………長尾雅人

彙報

新着外國雜誌所載論文一覽

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行う
- (一) 毎月一回研究会を開く
- (二) 毎年公開講演會を開く
- (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年一、二二〇圓、又は半年六一〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員

武藤	三宅	松尾	蓮實	野田	西谷	長尾	田中	武内	高田	園原	島澤	重澤	酒井	柿崎	白井	上野	井島	石田	池田	有賀
一剛	剛	義重	重又	啓治	美智	雅人	智太	義三	三郎	太芳	俊	俊	祐	祐	二	照	照	勉	義	太
雄一	海	康	夫	治	人	郎	郎	範	郎	郎	夫	郎	修	一	尙	夫	勉	仁	祐	郎

て、『寶性論』(Ratna-gotra-uttara-tantra)を引くが、之はかなり大きな飛躍である。如來藏思想は二四二頁にも觸れられてゐるが、何れの場合も、先の三身説と同様に、之が中觀の思想であるとの保證は何處にもない。たゞオパーミラーによつて傳へられた西藏の傳承が、『寶性論』を中觀ブラーサンギカ派の論書となすのみである。佛性・如來藏の思想が中國の佛教でしきりにもてはやされたことは周知の如くであるが、その漢譯の歴史からいつても、龍樹をへだたるかなり後世のものであり、かつ瑜伽唯識學派に親しいものなることは明らかである。著者はこれらの諸種の佛教思想の系統を扱ふに當つて、かなり手當り次第の所があるといはねばならぬ。西藏の傳承が右の如く述ぶることは、『寶性論』が西藏では彌勒の作とせられ、かつその五論の最後に擧げられる所から、之が竊極的立場を示すものと解せられ、従つて宗喀巴等が信奉するブラーサンギカの立場に一致するとせられたことに依るものであらう。

誤植は特に脚註に於いてかなり眼につく。例へば、p. 51 n. 2: sarvopalanbhomāṣāḥ は 'ambhopsāṣanah' であらう。八五、九一頁等では、脚註の番號が混雜してゐる。p. 104 n. 1, 1. 3: sadā'vidyamanah' でなければならぬ。

以上の如き缺陷或ひは筆者と意見を異にするものはなほ多々あるが、それにも拘はらず本書の樹立した功績は没すべからざるものがある。それは前にも述べた如く、現存する梵文に従つて佛教の根幹的な思想を追及し、之を廣く印度の諸思想の間に位置づけてその特色を際立たしめ、かつ西歐の哲學思想とも對

決せしめて現代への意義を見んとしたことである。著者の意圖もまたこゝにあつたのであらうし、その意圖は十分成功せるものといはねばならぬ。たゞ佛教全般よりする位置づけの不足を感ずるのは、筆者の醜を得て望む意よりするに過ぎない。

(筆者 京都大學文學部「佛敎學」敎授)

(了)

京都哲學會發會四十周年記念號

次 目 號 前

心理テストについて……………矢田部達郎
 歐米哲學界の印象……………高坂正顯
 ギリシア人と歴史(承前)……………田中美知太郎
 フィヒテに於ける自我……………大峯顯

草創當時……………植田壽藏

書評 大島康正「實存倫理の歴史的境位」……………梅原猛

彙報

新着外國雜誌所載論文一覽

Theorie der Demokratie.

Shokking, J. J.: Kritische Bemerkungen zu Janowitz' Theorie der Demokratie.

Stamner, O.: Politische Soziologie und Demokratieforschung. Sichtweisen der politischen Soziologie in Deutschland und den Vereinigten Staaten.

Sternberger, D.: Bemerkungen über den Gegenstand der Politik

Landhut, S.: Zum Begriff und Gegenstand der politischen Soziologie.

II. Spezieller Teil

Timasheff, N. S.: Wie steht es heute mit der Rechtssoziologie?

Lifitens, C.: Die kleine Gruppe—Legende und Wirklichkeit.

III. Teil: Aus dem Leben der Forschung.

Mayntz, R. und Pehlmuter, H.: Einige Versuchsergebnisse zum Problem der Vorstellungsbildung und Interpretation von Kommunikationen.

IV. Teil: Literaturberichte und Diskussionen.

Broderson, A.: Der russische Volkscharakter. Neuere englische und amerikanische Forschungen.

AMERICAN SOCIOLOGICAL REVIEW, Vol. 21—No. 5.

Wartner, C. K.: Group are Real.

Bennis, W. G.: A University Social Research Group.

Bowman, C. C.: Is Sociology Too Detached?

Richer, M. N.: The Conceptual Mechanism of Stereotyping.

Reiss, A. J.: Metropolitan Population Redistribution.

Williams, R. M., Fisher, B. R. and Tannis, I. L.: Educational

Desegregation as a Context for Research.

Balock, H. M.: Economic Discrimination and Negro

Increase.

Monahan, T. P. and Monahan, E. H.: American Negro

Leaders.

Farber, B. and Blackman, L. S.: Marital Tensions and

Number and Sex of Children.

Bowernan, C. E. and Day, B. R.: A Test of the Theory

of Complementary Needs.

Ramsey, C. E. and Nelson, L.: Values and Attitudes Toward the Family.

Morris, R. T.: A Typology of Norms.

〔以下次號に掲載〕

告 豫 文 論 號 次

時間の「方向」……………マックス・ブランク

講集團の社會的性格……………池田義祐

西洋哲學と印度思想(完)……………スフィン・アギーハー

——の比較研究——

米國の哲學と語言教育……………フレデリック・P・ハリス

マックス・ブランク教授の経歴をめぐり……………森田良紀

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は東京都千代田區神田駿河臺四ノ四弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費年（一、二二〇圓又は半年六一〇圓）をお拂込下さい
「振替口座東京五三九〇九 弘文堂」

一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちにお拂込下さい、一年分（又は半年分）會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年毎）に精算します。
一、會員の轉居入退會等（編集事務以外は一切）の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい
一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛に御送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和三十二年四月十五日 印刷
昭和三十二年四月二十日 發行

編 集 人 京 都 哲 學 會
京 都 大 學 文 學 部 内

右 代 表 著

酒 井 修
東 京 都 千 代 田 區 神 田 駿 河 臺 四 〇 四

發 行 人 八 坂 淺 太 郎

印 刷 人 草 刈 親 雄

印 刷 所 中 央 製 本 印 刷 株 式 會 社
東 京 都 新 宿 區 市 ヶ 谷 盛 町 一

發 行 所 株 式 會 社 弘 文 堂
東 京 都 千 代 田 區 神 田 駿 河 臺 四 〇 四

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい
一、本誌の御註文はすべて代金郵税共（一部、定價一〇〇圓・郵税八圓）を前金にてお送り下さい
一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

昭和三十三年四月二十五日
發行
發售
每月一回

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXIX

April, 1957

No. 6

Geschichte und Existenz..... Gerhard Knauß

Indian Thought viewed from a Western Standpoint

—A Study in comparative Method—(I)

..... Swami Agehānanda Bharati

Das Ich bei Fichte (II)..... Akira Ômine

Book Review:

Murti, T. R. V.: Central Philosophy of Buddhism.....Gajin M. Nagao

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

特價
金一四〇圓

IBM6472